

第4章 カラダにeキャンプの今後の方向性

国立花山青少年自然の家所長 松村 純子

平成28年4月から、国立花山青少年自然の家に勤務し、宮城県では、肥満傾向児の出現率が高いという課題があり、この課題に対応する必要性を強く感じました。

しかし、肥満傾向にある子供のためのキャンプを平成23年度から実施してきていますが、担当職員は参加者集めに苦労していると聞き、本事業は宮城県内に周知されているのだろうかという疑問を持ちました。

困難を有する青少年を支援する事業は、関係機関と連携・協力のもと実施しなければ対象となる児童・生徒に事業の情報が届きません。

各学校宛てに募集要項を送付しても、肥満傾向の児童・生徒はもとより、養護教諭にさえも届いていないことが現状です。

児童・生徒の毎日の健康観察、身体測定の実施、環境衛生など、学校全体の保健の管理を担っている養護教諭の先生方にこそ、本事業を知って貰いたいと思いました。

そこで、平成28年度は、5月に開催された「栗原市養護教諭部会」に担当職員が出向き、事業広報と参加者募集の説明をし、3名の申し込みがありました。

事業後ではありますが、10月には宮城県教育委員会主催の「学校保健研修会」において本事業を紹介する機会を得ることができましたが、研修会に参加された100名の先生方のほとんどが、本事業の内容を知らなかったという事わかりました。

本事業にとって、肥満傾向にある児童・生徒の情報を持つ関係機関と連携を取り、進めていく事が必要だとわかりました。

「学校保健研修会」で本事業の内容を宮城県立こども病院の先生に理解いただき、宮城県小児保健協会主催の「みやぎ小児保健セミナー2017」でも本事業について話す機会を得ることが出来ました事は、本事業の今後の方向性を探るきっかけとなりました。

今後は、宮城県立こども病院はもちろん、肥満傾向の子供に関わる様々な機関と連携し、本事業の企画について委員会を立ち上げ、本事業の参加者募集、県内の機関における本事業の活用方策についても考えていきたいと思います。

最後に本報告書が、肥満傾向にある子供たちの解消の一助になることを願っています。